



農業支援員
なかの ゆういち
中野 佑一さん

着任：令和4年4月
出身：苫小牧市

—これまでの経歴について教えてください。

北海道工業大学(現北海道科学大学)を卒業後、半導体の集積回路関連の製造や建築用ウィンドウフィルムの試作品の製造、農機具や産業用減速機などの営業職を経験してきました。趣味の自動車を仕事にしたい思いもあり、修行の意味も込めて仲間の中古車販売業の手伝いをしましたが、趣味を仕事にすることの難しさを知りました。

—農家になろうと思ったきっかけは？

農機具メーカーのクボタに勤めていて、農業が身近になり、仕事としての農業に興味を持ちました。自分が持っている知識とスキルが農業で生かせると思い、農業がやりたいと決めました。農業人口が減少している中で、新規就農者への支援が手厚く、事業が拡大できる可能性を感じていることも農業を志した理由の一つです。

—農家になるためにどのようなことをしていますか？

研修農場では、農業の基礎知識のほか、ほうれん草やイチゴ、カボチャの栽培などを体験しながら農業技術を学んでいます。また、先輩の研修生に同行して種まきや田植え、草刈り、収穫など、地域の農家さんを手伝いながら顔を覚えてもらえるようにしています。

—厚真町の印象はどのようなですか？

ほかの地域から移住してきた人に対して、優しくしてくれるおらかな雰囲気が好きで、とても住みやすいです。厚真町を選択して良かったと思っています。

—3年後の目標を教えてください。

両親は、私が農家になることに賛成し、忙しいときは手伝うと言ってきていて心強いのですが、まずは一人で限界までほうれん草栽培にチャレンジしたいと考えています。そのためには、栽培技術を磨くことが大切だと考えています。また、就農後は、周囲の農家さんからアドバイスを受けながら、高品質で収量のある栽培方法を確立したいと思っています。回転率が上がるように効率化を図り、安定的な農業経営を目指したいですね。なるべく早く軌道に乗せ、近くで支えてくれるお嫁さんを探したいと思っています。

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈7月末現在〉

農業支援員▷9人 教育魅力化支援員▷3人
起業型▷6人 協働型▷15人



農業支援員
わたなべ かずや
渡辺 和弥さん

着任：令和4年4月
出身：埼玉県狭山市

—これまでの経歴について教えてください。

埼玉県出身です。大学時代の先輩の紹介で松本市役所へ入職し、非常勤職員として2年間勤務後、採用試験を受けて埼玉県入間市役所の職員として医療関係の部署で7年間、障害者福祉関係の部署で4年間勤務しました。

—農家になろうと思ったきっかけは？

あまり身体が強い方ではなく、アレルギー症状で肌に発疹などがすることがあります。体質の改善を図るためには食べるものが重要と捉え、安心な野菜を自分の手で作りたいたいとの思いから農家を目指すことにしました。

—どうして就農先に厚真町を選んだのですか？

妻の出身地の長野県で就農する選択肢もありましたが、北海道には憧れがあり、農業をやるなら北海道でやりたいと思っていました。妻が「北海道以外で就農しても、心のどこかで北海道への気持ちが残ると思う。だったら

北海道で挑戦してみよう！」と背中を後押ししてくれました。空港も近く、移住後も帰省に便利なこともあり、厚真町に決めました。

—厚真町ではどのようなことをしていますか？

研修農場で、ほうれん草やイチゴの栽培をしながら農業について学んでいます。先輩の研修生と一緒に農家さんのところで米の種まきや田植えを行いました。地域の皆さんに少しでも顔を知って欲しいので、家族3人で積極的にイベントへ参加しています。

—厚真町の印象はどのようなですか？

移住者に対して、ウェルカムな雰囲気を感じています。まだ冬を経験していないので、寒さに対して怖さ半分、楽しみ半分という感じです。町内の子どもたちは大きな声で元気にあいさつしてくれます。子どもたちは、さまざまな活動に積極的に参加していて、厚真町の未来を作る担い手としてとても心強い存在に感じました。

—3年後はどうしたいですか？

我が家の農業形態は、家族経営で確実に人手不足となるため、いずれは前職の福祉でのキャリアを活かして、農業と福祉で連携して就労支援の場や子どもの農業体験の場として提供するなど、地域活動の活性化にもつながらと人手不足を解消していけるような農業を築きたいです。